

令和 3年 2月

松木由佳子 学位論文審査要旨

主 査 植 木 賢
副主査 藤 井 進 也
同 磯 本 一

主論文

Preablation three-dimensional ultrasonography can predict therapeutic effect and local tumor progression after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma
(ラジオ波焼灼前の三次元超音波検査は肝細胞癌に対する治療効果と局所再発を予測しうる)

(著者：松木由佳子、的野智光、孝田雅彦、三好謙一、杉原誉明、岡野淳一、磯本一)

令和2年 European Journal of Radiology 133巻 109358 掲載予定

参考論文

1. 非B非C型を含む肝細胞癌早期診断の課題

(著者：岡野淳一、池田傑、星野由樹、松木由佳子、三好謙一、前田和範、満田朱理、香田正晴、岸本幸廣、磯本一)

令和2年 鳥取医学雑誌 48巻 23頁～28頁

審査結果の要旨

本研究は、肝細胞癌のラジオ波焼灼術におけるablative margin (AM) を三次元超音波検査 (3D-US) を用いて電極針穿刺後、焼灼前に予測し、従来の方法である焼灼後のCT/MRIでのAMの評価との一致率およびその後の局所再発率を比較検討したものである。その結果、3D-USで66%の腫瘍が描出可能であり、焼灼前に電極針と腫瘍の位置関係から予測されたAMと、焼灼後のCT/MRIで評価されたAMの一致率は良好であった。また、3D-USで焼灼前にAMが確保されていると判断した結節については局所再発率は有意に低く、特に予測AM ≥ 3 mmの結節においては再発を認めなかった。本論文の内容は、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術の治療において、3D-USによる治療効果予測の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。